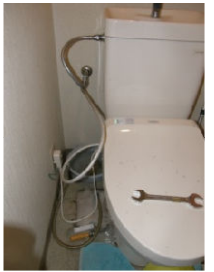


# エコたま グリーン NEWS



多摩市民環境会議機関紙 第146号(通巻第206号)  
2015年3月19日発行 発行人:清水武志朗 編集人:  
井上ひさかず 〒206-0025 多摩市永山3-9 東永山複  
合施設 301 (事務局員は常駐しておりません)  
e-mail qqh43tdd@train.ocn.ne.jp  
URL www.ecomeetingtama.jp



分費 3000 円」などと書いてあるではないか。「じゃあ自分でやるよ」と返事し、品物を持ちして自宅に帰った。

いざ交換となり、一番時間を食ったのが現在ついているウォシュレット本体をはずすとき。施工説明書では、ボルトを抜いて上に持ち上げている絵が書いてあ

左側奥の漏れが…  
る。だが抜くボルトがないのだ。一応、外から見える細いボルト4本はプラスドライバーを使って抜いたが、それだけでははずれない。

途中で「もう使わないのだから」と本体カバー一部を壊し、内部から便器に固定されているはずのボルトを探したが、これもなし。最終的に左右をがしがしゃとゆすってみたところ、手前側にスポッと本体が抜けたのだった。手前に引いて抜く絵もあとに書いてあったのだが、大きく書いてあるのを気にしすぎた結果だ。

午前8時半から始めて 10 時ごろには終わるのではないかと思っていたが、ここまででもう 2 時間たっていた。

真っ黒に汚れていた便器の上部をきれいに拭き、つぎは新しいホース類と分岐金具の取り付け。水道の元栓は閉めているとはいえ、ホース類に残った水が出るので、洗面器を“受け”にして使う。分岐金具も新しい部品としてあり、これを使うことでホース類がスムーズに取り回せる。しかし、壁から水道の管がきて最初の接続部からの水漏れが止まらない。

一応、すべて新品が設置されたので、水道の元栓をあげにいった。そしたら、先ほどの水漏れ部から音をたてて勢よく漏れ始めた。すぐ元栓を止めに戻る。解説書の「試運転」の項では「万一水漏れがあれば再施工を行い、水漏れを止めてください」とある。

仕方ない、先ほどきっちり閉めたナットを緩めて様子を見る。すると、パッキン類が1枚もついてないではないか。近くにあった樹脂系とゴムのパッキンを2枚はめて、また水を出す。しかし、それでも漏れは止まらず「これは業者に直してもらえないかな」などと思いつつ、捨てるホースについていたゴムパッキンをはめ足して最後のトライ。

そしたら、今度も最初はポタポタと漏れた。「もうどうしようもない」。あきらめて工具などを片づけていたら、なんと音がやんだ。新しいパッキンになじんだということなのか、水漏れが止まった！ではないか。一件落着か。その後も継続して漏れ出る気配はない。

最後に、リモコンスイッチを装着してすべての作業が終わった。時間は午後1時30分近くになっていた。つまり、約5時間かかったということだ。本当に挫折しかかるほど苦勞したが、9000円払って業者に施工してもらるか、自分自身でやるか、判断

左側にリモコンスイッチを装着した  
は分かれるところだ。しかし、あとの使用でまったく問題がないことを知ると、自分の苦勞が報われた感じで満足できた。プリーズ、ドゥイット、ユアセルフ (I)

## DIYでウォシュレットを新型に交換



左側タンク下から水漏れ しておけば実用上はさしつかえないので、修理屋さんを探すまでそのままにしていた。

最近、いざ修理屋さんが見つかって点検してもらったところ、「これは交換ですね」のひとつ。「ちょっと待ってよ、部品の交換なんかでは済まないの？」と聞いたら、「修理したって4万円ぐらい取られますよ」、「うちで買えば新しいのが4万円台なかばから6万円台なかばまで。家電の量販店だったら、もっと安いと思いますよ」などと、あまり自分のところから買うことを勧めない。これは「関戸っ子」の典型みたいな業者だ。



手持ちで買ってこられる 示されていた。メーカーはTOTOとパナソニックの2種類。わたしはTOTOの洗浄水の出方が気に入っていたので、パナソニック製には興味がなかったが、2万円台の製品があることを初めて知る。

業者が言った最も安い部類の4万円台なかばは、ここでは中級品だ。値段は4万3830円、税込み4万6850円。あと1万円出すと自動で便ふたが開くものがあるが、そんなものは贅沢と安いほうの機種にした。

ここでおどろき。店員が「お持ち帰りになりますか？」と聞くのだ。自分は数日後に設置業者とともに品物が古い本体がようやくはずれた



るものと思っていたから「えっ！」と思わず聞き返すと、「商品の中に工具が入っていて、自分で交換できるんです」という。近くの張り紙を読むと「業者の交換工賃 6000 円、交換品の処



## 一ノ宮用水改修後の水生生物調査報告(下)



### (4) 環境条件の変化

水深はI-2を除き、下流の調査区間ほど大きい傾向にあった。このことは調査区間外下流の堰および抽水植物による堰上げの影響が下流ほど表

右のキショウブは要注意外来生物れやすいためと考えられる。なお、橋下区間I-2の水深は45cmを下回ることはなく、水深が大きい状態で維持された。

### 4. まとめと課題

改修1年目のモニタリング調査の結果として、水田でギンブナやドジョウが繁殖可能できたことによって、9月以降にはそれらを中心とした魚類の生息が確認されたと考えられた。また、橋下の深みでは魚類が越冬することが期待された。一方で、以前の改修時に植栽されたキショウブ等が繁茂しており、水路を堰止める状態にあった。このことによって、護岸等の改修の影響を把握することは現時点では難しい状況にあると考えられた。次回のモニタリング調査は2014年と同様に2015年4月下旬に実施して、越冬個体の有無や、植物の生育が旺盛でないこの時期のデータから改修の影響を推察したいと考えている。また、これまでに未調査である隣接する水田での生きもの調査を行うことができれば、水田での魚類の繁殖や、カエル類および水生昆虫の生息状況を確認することができるだけでなく、農家の方とのコミュニケーションの機会にもなり得ると考えられる。

これまでの調査を通じ、水路改修の過程で農家の方々



図1 一ノ宮用水における調査地点  
(Yahoo 地図より)

から市担当部署へと管理が移管されたことによって、泥濘いや水草刈りなどの日常的な維持管理が希薄になっている様子が見えてきた。水路は流れが緩やかな区間が多いため堆積作用が卓越し、泥濘いが必要となる場合が多い。また、改修後であっても維持管理が全く必要なくなることはむしろ稀である。特に調査区間では、植栽したキショウブおよび生育するオオカナダモは要注意外来生物であり、そのような観点からは繁茂や種子分散を防ぐこと、さらには在来生物への置き換えを促進することが求められる。これに限らず、生き物を保全する区間では、「順応的管理(鷲谷、1999)」(対象に不確実性があることを認めた上で、改修や管理に対する生きものや環境の反応を確認しながら多様な関係者の参加のもとに、より良い状態へ更新し続けること)が求められる。今後の維持管理の検討材料として本モニタリング調査結果を活用することも今後も課題である。

## エコ・フェスタ活動報告(3) 森の恵み○△□もっこ

初めにクイズ。東京都の木はなに? 「イチョウ」そうイチョウです。では多摩市の木は? 「イチョウ」そう多摩市の木もイチョウです。東京都が決めた時は選定委員会で3



発表者の大石亜由美さん種の木が候補になった。ケヤキ、ソメイヨシノ、イチョウと。しかし、都民の声がイチョウだった。では、髪の毛をとかすくしは何の木? そうツゲです。昔は女の子が生まれたら庭にツゲを一本植えて、花嫁道具として持っていったという話がある。日本で一番長く生きる木はなに? そうスギです。屋久杉が代表格。

つぎに「木育」の話に入る。木育は北海道で始まった。子どもから大人まで木とふれあい、木と学びながら生きていくこと、と位置づけられている。16年に「木育推進プロジェクトチーム」が結成されている。18年に「森林・林業基本計画」が閣議決定され、市民や児童が木材に親しみ、木の関係者が木材の良さを啓発していくことなどを旨とする。19年には林野庁の「木づかい運動」というなかに木育が新たに加わった。

木育というのは簡単にいうと、①北海道から発信された新しい教育活動や市民活動のこと②木について様々な体験をしたり、話したりすること③森林や環境問題に対する確かな伝達④木材を技術的にうまく使い、それを伝えていくこと⑤日本の伝統を受け継ぐ確かな力を育てたいと思うこと。

わたしの木育に対するスタートは、多摩市の小学6年生が宿泊して林業体験する移動教室に、8年近く看護師として医療面から同行したことがきっかけだった。いまゼロ歳児から木の玩具で遊ばせることを考えている。

## 再生エネルギー事業化報告会と完成を祝う会

多摩循環型エネルギー協議会が中心になって進めてきた「地域主導型再生可能エネルギー事業化検討協議会(環境省委託事業)」の3年間の活動報告会と「多摩市施設への市民発電所完成を祝う会」が3月15日、パルテノン多摩の第2、第3会議室で行われた。

報告会は午前中に行われ、3年間の検討内容の報告を事務局の山川勇一郎さんが行い、施設提供者の阿部裕行市長の挨拶のあと、協議会の委員長を務めた水上貴央弁護士が未来志向の締め挨拶を行った。

午後はこの2年間で多摩市内の公共施設9カ所に発電所を完成させたことを祝う会。ここでは空から見た発電所の様子や、必ずしも南側の屋根だけではなく東側や西側に傾斜した屋根に取り付けた結果、やはり発電量は思うようには上がらなかったことなどが報告された。

また、市内在住の「森のシンガーソングライター」と呼ばれる証(あかし)さんが、多摩エネ協をイメージしてつくった「地球ワット!」という歌が、<エコジャパンカップ2014>でグランプリに輝いたことを記念し、証さん自身による地球ワットのライブも開かれた。来場者も一緒に手をたたきながら合唱。右写真

